

# びぶりおてか



同志社大学図書館報 No.47 1990. 4. 1

## 図書館という名称を探る

工学部長 原 敬

図書館と名前がつけられた施設に私が初めて接したのはおそらく高校生のときであったと思う。最近、この図書館という言葉にふと興味を

もった。情報ネットワーク下での図書館ということに刺激されたものかもしれない。手許にあった新村出編「広辞苑」を開いてみた。図書館は語源上とーしょーかんの3つで編成されていること、初めズショカンと云われていたこと、書籍館というのが図書館より少し古い言葉として用いられていたことなどが分かった。ここでまた改めて書籍館から図書館へと変わった時期、また、ズショカンと何時頃まで呼ばれていたのかに興味が生じ、言葉のうえからみた図書館の推移を少し調べてみようという気になった。このような調査には大学図書館となるのであるが、この分野にはまったく門外漢の私にはどのような学術誌があるのか、また適当なのか分からない。コンピュータ検索の方法もあるが、現時点ではその専門分野の知識をある程度もっていないと情報過多になってしまう可能性が多分にある。そこでレファレンスカウンターでお世話になることにした。コンピュータには不向きな

### 目 次

図書館という名称を探る……………	1
アメリカの図書館員……………	3
新入生のための	
ラーネッド記念図書館入門講座：Q&A ……	5
新聞のスクラップを機械がしてくれる…	6
文献探索	
新聞・新聞学に関する二次文献…	7
実例を中心とした	
資料のさがし方(36)……………	9
「特別研究図書費」による購入図書	
リスト(6)―1989年度―……………	11
ピックアップ	
日経・経済図書文化賞……………	12

私のかかなりあいまいな条件・要求に対して適当な本、雑誌を紹介していただいた。感謝する。

日本人大衆に図書館というのが欧米先進国にあることを最初に紹介したのは慶応2年(1866)刊行された福澤諭吉の「西洋事情」であり、ビブリオテーキと書かれている。そして明治5年(1872)に文部省所管の官立書籍館が湯島の旧昌平坂学問所附設の大学講堂を仮りの書籍館として発足した。これが日本近代図書館の始まりである。以後この書籍館は行政上の都合で明治6年(1873)に所管が文部省から離れ正院博覧会事務局となり、明治7年(1874)に浅草へ移転し浅草文庫と改称する。一方文部省は国民教育振興の立場から、文部省所管の書籍館の復活を主張し、再び旧地の湯島に東京書籍館を明治8年(1875)に開館した。しかし西南戦争の影響による政府の財政上の理由で、明治10年(1877)に廃止されることになり、東京府が東京府書籍館としてこれを引継いだ。その3年後の明治13年(1880)に、財政事情の好転もあり文部省へ再移管され、名称も東京図書館と改めて発足した。その後明治18年(1885)には上野公園に移転、明治30年(1897)に帝国図書館(現国立国会図書館の前身)と改称、通称、上野図書館として親しまれた。

同志社大学においては、その図書館の源は明治18年(1885)に定礎式が行われた書籍館(現有終館)であり、明治45年(1912)まで中央図

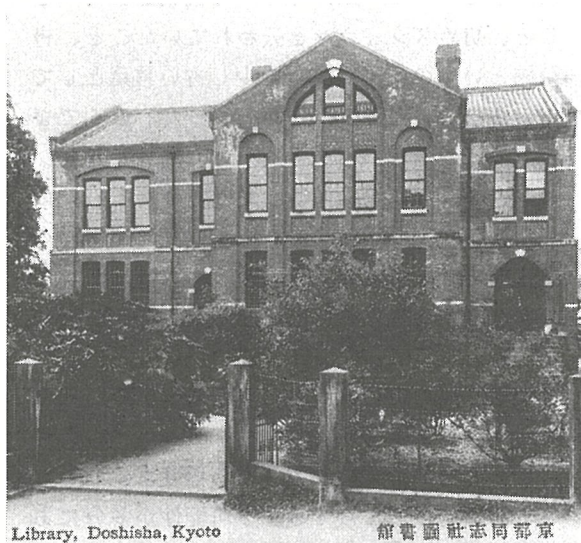
書館としての役割を担ってきたことが同志社百年史に述べられている。以後、専門学校令による同志社大学の発足にともない、図書館書庫(現啓明館北側建物)が大正4年(1915)に竣工、大正9年(1920)には本館(現啓明館南側建物)の竣工により同志社図書館が開館した。これは昭和6年(1931)に同志社大学図書館と改称されるが、昭和48年(1973)に開館された同志社大学新図書館まで同志社の中央図書館・研究施設として役割を果たした。そして、今日、現図書館は計算機の発達とOA化にともなう情報ネットワーク化の下で、書籍の閲覧という情報提供の場から、それを包含してもう少し広く、学術文献情報を検索し提供する場としてその機構が変わろうとしている。図書館に時代の波が大きく打ち寄せられてきたことがよく分かる。

ところで図書館の名称が何時頃から用いられたのかということであるが、東京大学の明治10年(1877)に刊行された洋書目録に図書館の文字が印刷されていること、前述のように文部省が東京図書館の名称を明治13年(1880)に用いたことを考え合わせると、明治10年(1877)前後に図書館の新語が誕生し広まり始めたのではないと思う。なお、この図書館の新語は明治の中頃に中国留学生達により中国へ伝わり普及したようである。

図書館の呼称であるが、東京図書館洋書目録、明治18年(1885)刊行に、Tokio Dzushokwanと標題紙に示されているから、公式にはズシヨカンと呼ばれていたことが分かる。一方、明治21年(1888)頃からの英和辞典、日本語辞典に、としょくわんと書かれているのが見られ始めたようなので、この頃からトシヨカンの呼称が浸透していったと推察する。

また、書籍館はショジャクカンとショセキカンの読みかたがあったが、東京書籍館の公式呼称はショセキカンであった。なお、同志社の書籍館もショセキカンと呼ばれていたことを社史資料室を通じて教えてもらった。

最後に臆面もなく敢えて本稿を書いた理由は、学生諸君が興味、疑問を抱いたとき自分で調べる研究態度を習慣づけてほしいという願いがあった。



Library, Doshisha, Kyoto

館書図社志同部京



# アメリカの図書館員

荒川 典央

ハワイ大学の図書館を訪問したおり、本学より客員教授として同大学に滞在中の文学部沖田先生にお会いした。同先生によれば、ハワイ大学では、客員教授として家族と共に生活できる住まいを提供されているばかりでなく、2人の担当秘書が決められ、研究に必要な様々なお世話をしてくれるという。具体的には、研究目的に沿った資料、情報の提供や調査、それに学内外の研究所、研究機関を調査訪問する場合の全てのアレンジメントなど、ライブラリアンによる行き届いた参考サービスが中心と聞いた。

国際交流の必要が叫ばれ、本学に於いても外国の大学との間で様々なレベルの協定が結ばれてもいる。しかし、我々の受け入れの現状とは如何なものであろうか。いや、全体的な受け入れ体制の話としてではない。留学生に教育・研究上必要な様々な援助ができる程の実力を備えた、スペシャリストとしての図書館員の話としてである。

そこで、アメリカのライブラリアンの位置付けや、機械化との絡みの中でその様子など思いつくままに綴ってみた。

アメリカの大学では、ライブラリアンの位置付けとは如何なものであろうか。おおまかにいって図書館員の身分には次の3種類があるという。その一つは、1) 一般事務職員 (Library Clerk)、2) Academic Rank に位置付けられる場合、そして3) Faculty Status の処遇を与えられる場合の3つである。

アメリカでは、1) はほとんどなく、2) が一番多いといわれ、2) に位置付けされるライブラリアンの給与は、およそ1) と3) の間くらいという。

Academic Facultyに位置付けされるライブラリアンは、ライブラリー・サイエンスのDegreeであるMLSを取得していることが常であり、Junior Specialist (Instructor) からAssistant Specialist (Assistant Prof.) へ、更にはAssociate Specialist (Associate Prof.) へと昇格してゆくには業績評価が当然とされる。特にJunior Specialist からAssistant Specialistに昇格申請する時は、上記MLSの他にもう一つの専門分野の修士号 (MA) が必要とされるほか、Assistant SpecialistからAssociate Specialistへ、更にはProfessorとなるには、例外を除いて博士号 (ph.D.) を取得することが必須の要件とされている。

ただ、Teaching Facultyに比べてAcademic Rank

に位置付けられるライブラリアンは、Junior Specialistで採用され、5年目に申し込みをするTenureの資格申請に於いては、特別な業績 (翻訳・書評など) がなくても、比較的容易に資格を取得できるといわれている。

しかし、業績を上げ、更にはPh.D.を取ることは、時間的制約も多いライブラリアンには困難な面も多く、Rank 3つまりAssistant Specialistに留まるケースが大部分と聞いた。

基本的なライブラリアンの身分は概ね以上の通りである。しかし、実際には2) にも3) にもランクされない多くの人々が働いている。それをオハイオ州立大学、イリノイ大学、スタンフォード大学に例を取りながら、図書館の機械化との絡みの中でどのような実態にあるか紹介してみよう。

アメリカでは、いずれの大学図書館においてもStudent Assistantがかなりな規模で採用されている。たとえばオハイオ州立大学の場合、整理課だけでも40~50人 (一人一週12~15時間) が採用され、Record input, Bibliographic search, Authority searchなどが主な仕事とされていた。

また、閲覧業務 (Circulation) はほとんど学生アルバイトの仕事とされている他、書庫整理、ラベル貼りなどもこうしたアルバイトの仕事となっている。

蛇足ながら、これらアルバイトの時間給はおおよそ\$6.35と聞いた。

他方、イリノイ大学のみならずコロンビア大学でも、Graduate Assistantと呼ばれる人々が働いている。その名の通り、すべてLibrary schoolに籍のある学生であることが特徴的である。従って当然full timeの正職員ではない。専門職としてのライブラリアンを目指す学生であり、目に触れた限りでは、目録作業など比較的高度な職種に配属され、ライブラリアンと一見変わらぬ働き振りに見えた。

この他、相当な数のLTA (Library Technical Assistant) と呼ばれる館員がいた。イリノイ大学の場合、この職種は3ランクに分かれ、①にランクされる人はアメリカの図書館で1年以上の経験を有する4年制大学の卒業者、若しくは言語等において特殊技能を有している人に限って採用されている。経験2年で②にランクされ、③に評価された人は相当な有識者ということになる。このLTAに位置付けられた人達こそ、整理業務の中核ともいべき部分を担っている。

イリノイ大学図書館でSpecialistの配置図を前に更に詳しい説明を受けた。多少話はそれるが述べてみよう。

機械化以前Cataloging Dept.には26名のSpecialistがいたという。ところが現在、Director of technical and automated servicesのもとに、整理業務担当者(Specialist)として、1人のPrincipal Catalogerが配置されているに過ぎない。主要な理由は受入図書の整理をすべてMARCによることとしたためという。つまり、資料整理はコピー・カタログすることを前提に、Cataloging Dept.に属するCataloging Specialistの数を縮小したのである。もっとも、アメリカでは、本には出版の時点で既にLC-NOが付与・印刷され、書誌・所蔵ファイルはたいていの場合、複数の大学で共同構築されていて、ヒットする確率も高くこうしたシステムにもともとなじみ易い側面を持っている。

また、MARCを使っている整理作業や、オリジナル入力資料は、上記LTAが一人のPrincipal Catalogerの指導を受けながら整理するシステムとなっていた。



(スタンフォード大学 J Henry Meyer Memorial 図書館)

一方、スタンフォード大学でもAcademic FacultyにはランクされないLibrary Specialistと呼ばれる図書館員がいて、イリノイ大学図書館と同じように機械化された整理業務の中核的部分を担っているように見えた。端的に言えばLibrary Schoolの卒業生ではない彼等は、次の通り経験によって4ランクに分けられ処遇されている。①Specialistといっても経験が浅い人。②3年以上の経験があり評価もある人。③経験も長く相当な評価のある人。それに④Para-professionalとの評価のある人である。

それぞれのランクによって担当する仕事の中身も当然違いがあるが、整理部門ではMARCとのヒット作業を専門にする人やローカル・データの入力作業をする人、それに、MARCのメンテナンス作業は③にランクされる人達が担当していた。

ところで、スタンフォード大学整理課のMrs. Davisは機械化によって整理部門は遅かれ早かれイリノイ型の組織になって行くのではないかと話していた。MARCの信頼性の向上と共に整理経費と効率が何時も念頭に置かれているためであろうか。

エール大学を中心として 800館以上もの図書館で運営されるRLIN (Research Libraries Information Network) や、イリノイ大学が参加するWLN (Washington Library Network) の例、州内の公立図書館をもすべて一元的にコントロールするオハイオ州立大学の例、Five Collegeで運営するアーモスト大学のあり方など、それぞれ機械化への対処の仕方には違いがある。

しかし、いずれもMARCを有効利用しながら、書誌・所蔵ファイルを共同構築し、相互利用に結びつけている点で一致する。

これまでMARCの「質」については、たとえそれが日本のものであれ外国のものであれ色々な批判を耳にしてきた。しかし、年輪を積み重ねるに従って、その「質」も向上してきたとの評価もある。整理業務のコピー・カタログ化を、いや、図書館全体の機械化が大々的に押し進められることで、ライブラリアンの役割にも大きな変革が起きてきていることを伺い知った。

また、機械化を進めることで部門によっては専門性を必要とする度合いを低くすることも可能であろう。少ない人材をレファレンス業務など、高度な専門性抜きには考えられぬ所に、より厚く配置することもまた可能となる。

イリノイ大学にはレファレンスカウンターが二カ所設けられていた。その一つは高度なレファレンスの、他方は図書館案内や利用指導、いい代えれば機械検索の仕方や機械検索で可能な程度のレファレンスのためのカウンターであった。後者のカウンターには何時も人だかりがしているのがなんとも印象的であったが、聞けばこのカウンターのレファレンサーはライブラリアンではないという。機械化の進捗と合わせ人材配置にも様々な工夫の余地があることの一例である。

ライブラリアンはコンピュータで何がどこまで可能かを、そして、コンピュータ技術者は図書館業務そのものをより理解する努力が今ほど求められている時はない。図書館と計算機センターとがうまく融合し、ハーモニーする時、従来の「範囲」も「質」も超えた図書館サービスが可能となることを教えられた。

機械化は素人が玄人に近い正確さと生産性を、時として、また、セクションによって恒常的に上げることすらも可能である。だからこそ機械化の進展と比例して、オーケストラを指揮する指揮者のように、整理業務のみならず図書館業務すべてにわたり体系的で高度な知識を身に付けたライブラリアンの養成が一方でまた必要となる。機械化と合わせ、そうした人事政策上の配慮がなされてはじめて、外国からの留学生や研究者に質的にも対応可能な図書館員が生まれてくると思われるのだが。

(田辺校地学生課)



# 新入生のための ラーネッド記念図書館入門講座：Q&A

## I. 利用一般

Q：開館時間はどうなっていますか？

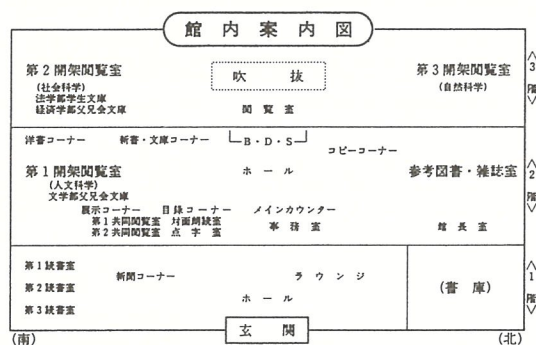
A：開講期は下記の通りです。

月～金曜日 9：00～18：00

土曜日 9：00～15：00

Q：施設の概要について教えてください。

A：下図のようになっています。1階にはラウンジ、新聞コーナー（本日分）及び自習のための第1～3読書室があります。2～3階は開架式閲覧室になっており、2階にはすべての受付業務を行うメインカウンターがあります。



Q：図書館利用上でわからないことがあったらどうすればよいのですか？

A：メインカウンターの「利用案内」コーナーの係員（不在の時は誰でもよい）にお尋ね下さい。一般的なだけでなく、資料の探し方や各種目録の使い方などどんなことでも遠慮なく質問して下さい。

Q：お昼の弁当を食べていいですか？

A：ダメです。館内での飲食は厳禁。また、館内での私語、談笑も他の利用者に迷惑をかけることになるので厳禁です。

Q：今出川キャンパスの図書館を利用できますか？

A：できます。直接今出川へ行ってもかまいませんし、今出川から本を取り寄せて借りることもできます。貸出・返却・文献複写等、いずれの図書館でも受け付けます。

## II. 図書資料の構成・所在

Q：天文学関係の本はどこにありますか？

A：3階の第3開架閲覧室の分類番号 440台の所にあります。一般書は、人文・社会・自然の各分野ごとに第1～3開架閲覧室に配置されています。その中で図書は分類番号（主題別の数字）順に配架されているので、壁面に掲示されている分類表等によって分類番号

を確かめ、該当箇所へ行って下さい。

Q：英語の辞書がみあたりませんか？

A：参考図書・雑誌室にあります。この部屋には調査等に必要な参考図書、すなわち百科事典、専門事典、便覧、辞書、統計書、文献目録、地図帳などがあります。また、雑誌の最新号及びバックナンバー（既刊号）や新聞（本日分以外）もこの部屋に置いてあります。

Q：最近出た岩波新書をみたいのですが。

A：第1開架閲覧室の新書・文庫コーナーへ行って下さい。このコーナーには岩波、中公など新書4種、岩波、新潮、中公など文庫6種が一般書とは別に配架されています。また、この部屋には洋書コーナーがあり、英語で書かれた図書が置かれています。上記の他特別なコーナーとしては、文学部（第1開架）、法学部、経済学部（ともに第2開架）の各学部文庫があります。

## III. 本の探し方——目録の利用

Q：桶谷秀昭の『夏目漱石論』はありますか？

A：目録コーナーにある蔵書目録（冊子体）を引いて下さい。著者（桶谷秀昭）、書名（夏目漱石論）、研究された人（夏目漱石）のいずれからでも検索できます。探している本の書名等がはっきりしている時はこの方法が効率的です（もちろんコンピュータでも検索できます）

Q：琵琶湖に関する色々な本をみたいのですが。

A：目録コーナーにあるコンピュータで検索して下さい。書名などがはっきりせず、主題も多岐にわたる場合は有効です。「琵琶湖」という言葉から探したり、検索の条件を組合せたり等多様な検索が可能です。

## IV. 貸出・返却

Q：本を借りたいのですが手続きは？

A：「図書利用カード」と借りたい図書をメインカウンターへ持ってきて下さい。係員が貸出手続きを行います。冊数は4冊以内、期間は2週間以内です。

Q：返却はどうすればいいのですか？

A：返却図書をカウンターに提出して下さい。係員が手続きします。なお、貸出期間（返却期日）は厳守して下さい。万一返却が遅れた時は、延滞日数に相当する期間貸出停止になります。

図書館の利用についてより詳しいことは、Students' Guide（学生便覧）に掲載されています。一読下さい。

# 新聞のスクラップを 機械がしてくれる

既にご存じだとは思いますが、オーディオの分野で、レコードに代わって登場したCD（コンパクト・ディスク）が音楽用として今、大変な勢いで普及しています。この音楽用のCDが、小型で大記憶容量性があるところから、コード情報のメモリーとしての利用効果を期待され、「読み出し専門」のディスクとしてのこのCD-ROM（Compact Disc-Read Only Memory）は、情報要素である文字・絵・音などを混在できる媒体であり、単に文字だけ、絵だけ、音だけ、といった従来のメディアから飛躍した新しいメディアとして注目されています。

こうした状況から、図書館（今出川・田辺両校地）では1989年10月よりCD-ROMおよび関連機器を導入し、CD-HIASKにより朝日新聞東京本社最終版で1985年1月～1989年12月までの新聞記事索引がより速く、よりの確に引き出せるサービスができるようになりました。ここに紹介し、有効に利用されることを期待します。

このCD-HIASK利用希望者はいつでも気軽にカウンターまで申し出て下さい。

◎ 自由語検索で「選挙」・「格差」と入力すると、下記の一覧表が表示されます。

バイブルズ 【結果一覧】				PAGE 1
CD-DISC0015	ファイル: 1,2,3,4	全件数:	70,003	
保存件数: 29				
No.	内容			
1	参院のあり方に注文する(社説)	5頁	牙間無 (全1553字)	
2	株と政治家(天声人語)	1頁	牙間無 (全858字)	
3	もう時間切れ(社説)	5頁	牙間無 (全1548字)	
4	衆院定数(社説)	5頁	牙間無 (全1548字)	
5	61年総選挙の11月(社説)	5頁	牙間無 (全1548字)	
6	社会(「老い」を交えるもの)	1頁	牙間無 (全1548字)	
7	参院のあり方に注文する(社説)	5頁	牙間無 (全1553字)	

上記の中より「1」を詳細表示すると下記のように表示されます。

(なお、詳細表示については当館所蔵の縮刷版をご利用願います。)

バイブルズ [詳細印刷]

CD-DISC0015 ファイル: 1,2,3,4

全件数: 70,003

保存件数: 29

[0001]

●記事番号: 880202035

●見出し: 参院のあり方に

注文する(社説) 8.8.2.2 朝刊 5頁 牙間無 (全1553字)

●全文

参院のあり方に注文する(社説) 8.8.2.2 朝刊 5頁 牙間無 (全1553字)

参院のあり方に注文する(社説) 8.8.2.2 朝刊 5頁 牙間無 (全1553字)

参院のあり方に注文する(社説) 8.8.2.2 朝刊 5頁 牙間無 (全1553字)

参院のあり方に注文する(社説) 8.8.2.2 朝刊 5頁 牙間無 (全1553字)

参院のあり方に注文する(社説) 8.8.2.2 朝刊 5頁 牙間無 (全1553字)

参院のあり方に注文する(社説) 8.8.2.2 朝刊 5頁 牙間無 (全1553字)

あなたのテーマで検索を!

検索作業は当係員が実行し、結果を紹介いたしますが、HIASKの検索はとても簡単です。求める記事に関連した、思い付くままの言葉をキーワードに使えます。これが自由語検索です。自由語検索では、記事中の名詞を自動的に抜き出してキーワードを作っています。さらに自由語のキーワードを補強するために、記事の主題や国名記事種別の分類語も用意されています。主題分類は、政治、経済、文化、科学、事件など10個の大分類、中・小分類に細分化した約850項目からなり、記事ごとにテーマを読み取って割り振っています。国名分野は香港、マカオなどの各国領土も含め、5分類・199項目、記事種別分類は連載、解説、用語、死亡など9種類にわけられている。

HIASKは自由語だけでも、分類語だけでも、あるいは両者を組み合わせても検索できる仕組みになっています。

入力はカナ・数字モード、または漢字モードで行い、出力は一覧表示、詳細表示の2形式がある。一覧表示は見出しと掲載日付、朝・夕刊の別まで、詳細表示は、①見出し・出典、②見出し・出典・前文、③見出し・出典・全文の3種類。出典は掲載日付、朝・夕刊の別、写真・図の有無、本文文字数を表示します。

検索例を2、3挙げてみましょう。

◎ 身じかな固有名詞で「同志社大学」と入力すると、下記の一覧表が表示されます。

バイブルズ 【結果一覧】		PAGE 1
CD-DISC0015	ファイル: 1,2,3,4	全件数: 70,003
保存件数: 7		
No.	内容	
1	同志社大(山陰、赤野の) 8.8.1.6 朝刊 10頁 牙間無 (全239字)	
2	修川(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全221字)	
3	「土井たか子(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全574字)	
4	大学(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全1976字)	
5	清水邦生(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全140字)	
6	金沢(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全203字)	
7	ソ連(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全574字)	

◎ 自由語検索で「民族問題」、固有名詞で「ソ連」と組合せ入力すると、下記の一覧表が表示されます。

バイブルズ 【結果一覧】		PAGE 1
CD-DISC0015	ファイル: 1,2,3,4	全件数: 70,003
保存件数: 71		
No.	内容	
1	党中央(東京、赤野の) 8.8.1.6 朝刊 10頁 牙間無 (全239字)	
2	アルメニア(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全896字)	
3	大谷(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全574字)	
4	ソ連(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全1976字)	
5	ソ連(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全140字)	
6	アゼルバイジャン(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全203字)	
7	ソ連(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全574字)	
8	ソ連(東京、赤野の) 8.8.1.13 夕刊 1頁 牙間無 (全574字)	
9		



## 新聞・新聞学に関する二次文献(上)

新聞記事については既に「実例を中心とした資料のさがし方-29-」(びぶりおてか No.39, 1986. 4. 1)と「同さがし方-34-」(びぶりおてか No.44, 1988. 10. 1)で扱っている。前者ではニュース記事に関するもの12点と主要5紙の変遷を載せ、後者では事件、話題等具体的な件名によって検索できる資料10点(うち5点に簡単な解説あり)と25点にのぼるニュース記事関係資料の収録期間一覧を表示している。今回は上記のものと同重ならないもので新聞・新聞学・ジャーナリズムの範囲に包摂されるものを以下に示す。実際の利用を考慮に入れ、適宜有効利用の手引となるコメントを加えたものもある。なお、解説は新聞以外のものが含まれていても新聞に関することに限定した。また出版社と同一の編者は省略した。

### ＜新聞関係書誌の解題＞

1. 雑誌・新聞書誌解題 <研修教材シリーズ No.5> 国立国会図書館 1986 (0027.5; KF)

司書研修に使用された教材用テキストで新聞利用に関する二次文献が手際よく載せてあり、新聞資料利用を全体的に把握するのに便利。

### ＜新聞の所蔵・種類・団体＞

2. 全国マイクロ新聞所蔵一覧 国立国会図書館 1988 (0027.5; KC-4)

1987年11月現在、全国の公共図書館、大学図書館、都道府県庁、市役所、都道府県・指定都市議会資料室、関連諸機関、日本新聞協会、主要新聞および国立国会図書館が所蔵する新聞マイクロフィルムの目録。記述は紙名、発行地、発行所、創刊年月、改題事項の順。求める新聞の所蔵を全国的にチェックするのに便利。

3. 日本新聞協会所蔵図書目録 日本新聞協会 1987 (0029.4; N3)

1987年4月の時点で、当協会所蔵のうち新聞、出版放送関係図書4,928冊( $\frac{1}{5}$ は洋書)を収録。新聞関係だけの専門書誌としてその収集、研究に不可欠。著者(団体を含む)、書名の索引が末尾に付く。

4. 雑誌新聞総かたろぐ 年刊 メディア・リサーチ・センター (0027.5; Z2)

新聞通信の欄に地域別、種類別、主題別の順で編成される。創刊年、刊行年、刊行頻度、大きさ、頁数等購読に必要な情報の他に内容の紹介が特色。前付で分

野コード、末尾に発行社、タイトルの索引が付く。現在刊行されている入手可能な新聞情報を知るのに適切な資料。英字紙、外国人紙も含む。

5. 日本新聞雑誌便覧 年刊 日本新聞雑誌調査会 (0070.6; N8)

全国規模で収録した最も網羅的な新聞の便覧。記載は社名によって配列、発行紙名、発行部数等の基礎的情報の他に特色欄で主題分野、役割もわかる。新聞関係団体は協会別、新聞名、社名、氏名には索引がある。特色は業界紙、地域ローカルタウン紙の収録。

6. 専門新聞要覧 年刊 日本専門新聞協会 (0070.6; N8)

日本専門新聞協会加盟の119社を題号のタイトルバックと共に50音順に配列。社歴、読者層、編集綱領、紙面の内容等。業界紙の調査に最適。

7. 明治新聞雑誌文庫所蔵図書・資料類目録 近代日本法政史料センター編 東京大学出版会 1983 (0029.7; TA)

1981年3月現在で当文庫所蔵の図書約150タイトルを収録。貴重なものはパンフレット、新聞雑誌一枚物、附録、絵図錦絵、書翰、看板の項に収録された資料。「滑稽新聞」を発行し、同文庫設立時の主任であった宮武外骨の書函目録も含む。

8. 明治新聞雑誌文庫所蔵新聞目録 東京大学出版会 1977 (0027.5; T4C)

1977年4月現在までに収録した日本語新聞、読売瓦版、錦絵新聞、中国語新聞、外国語新聞1,856紙を50音順に配列。末尾に都道府県別索引、国別索引あり。同文庫創立時の目録『東天紅』全3冊以後の追加をえて、明治期発刊の新聞の全容を知ることのできる目録。

### ＜新聞記事索引＞

9. 朝日新聞記事データベース (CD-HISAK '88) (レファレンスカウンター設置)

朝日新聞東京本社最終版から、地方版、スポーツ面を除く'88年度分のほとんどの記事約7万件を収録。記事タイトル、掲載年月日、朝夕刊の区別、頁、写真・図の有無、前文、全文がわかる。付録には総索引の'85～'87の3年分の合計約17万件の記事項目を収録しているので'85年以降の記事が一挙に検索できる。

10. Clipper 1 [1984] + 日本エディタースクール

- 出版部 (P020.1 ; C2) : 新刊展示
11. 新聞月報 138 (1958) + 新聞月報社 1958 (P051 ; S62) : 新刊展示
  12. 月刊新聞ダイジェスト 21 [1987] + 新聞ダイジェスト社 (P071 ; G4) : 新刊展示、バック : 雑誌室
  13. 宗教情報 1 [1986] + 鈴木出版 (P160.1 ; S6)
  14. 月刊女性 : 切抜き情報誌 1 [1987] + パド・ウィメンズ・オフィス (P367 ; J5) : 新刊展示
  15. 新聞切抜き福祉情報 1980 [1981] + アイオーエム (P369 ; S28) : 新刊展示
  16. 月刊コンピュータ・ダイジェスト 156 [1987] + ティー・エー・シー企画 (P418 ; G) : 新刊展示
  17. 月刊切抜き体育・スポーツ 33 [1976] + アイオーエム (P780.1 ; G) : 新刊展示
  18. 月刊切抜き保健 36 [1978] + アイオーエム (P780.1 ; G2) : 新刊展示
  19. 月刊切抜き子どものからだと心 1980 + アイオーエム (P780.1 ; G3) : 新刊展示

上記10-19は特定の主題に関する記事を探すのに便利な新聞切抜き情報誌。10の『Clipper』は出版、書評、著者に関する図書情報誌。13の『宗教情報』は切抜き記事の他に特集記事、宗教専門紙の見出し等宗教に関する総合情報を目指したもの。

#### <新聞・ジャーナリズム文献目録・雑誌記事>

20. 図書・雑誌・ジャーナリズムに関する27年間の雑誌文献目録 : 昭和23年-昭和49年 日外アソシエーツ 1982 (028.02 ; N)
 

国立国会図書館監修『雑誌記事(人文・社会編)累積索引版』の第I期-第IV期をもとに昭和23-昭和49年(1948-1974)の27年間に発表された図書・雑誌・ジャーナリズムに関する雑誌文献約14,000件を収録している。主題別の文献目録の他、巻末に事項索引(主題および人名)を付している。
21. 雑誌新聞解題の案内 1-139 天野敬太郎 『日本古書通信』31 (11)-43 (5) [1966-1978] (P023 ; N) 所収
 

新聞そのものについて書かれた解説や評論を集めたユニークな書誌。個別新聞論を知るのに便利。
22. 世界の新聞雑誌ガイド 改訂版 日本貿易振興会 1982 (027.5 ; N8-2A)
 

世界の新聞・解題。前付で主題索引、国別索引を伴う。収録数は約680点でロシア語は末尾に別配列。紙名、刊行頻度、発行所、発行国、内容、特色の記載がある。
23. ヨーロッパの新聞 上下巻 江尻進他編 日本新聞協会 1984 (070.23 ; E)
 

ヨーロッパ7ヶ国の新聞事情と主要新聞リスト、参考文献を載せている。末尾に索引。
24. 米国初期の日本語新聞 田村紀雄他編 勁草書房 1986 (070.253 ; B3)
 

新聞雑誌索引より米国の日系新聞の歴史事情が引ける。年表によって創刊年、人名事項索引から新聞関係者がわかる。『海外邦字新聞雑誌史』 姥原八郎著

名著普及会 昭和11年の復刻 (070.2 ; E-1a) も参照するとよい。

25. わが国におけるソ連新聞・雑誌マイクロ資料所蔵目録 『スターリン時代の国家と社会』 浜内謙他編 木鐸社 1984 (312.38 ; S12) 所収
 

ソ連の入手可能な新聞は日ソ図書『ソビエト新聞雑誌カタログ』 (027.5 ; 用品) でわかるが、日本でのマイクロフィルムの所蔵状況はこの目録によって確かめられる。ただし、東大、一橋大、国学院大のみ。

#### <特殊な新聞集成> (特定新聞の集成は除く)

26. 幕末明治新聞全集 明治文化研究会編 全8巻別1 世界文庫 1961-1962 (P071 ; B2)
 

文久2年(1862)蘭学者たちがオランダ新聞を訳して刊行したバタビア新聞より明治5年まで、日本における新聞揺籃期の新聞のほとんどを収録した全集。主なものは日本貿易新聞、ヒコ海外新聞、萬国新聞、日々新聞、江湖新報、都鄙新聞等である。『ぶぶりおてか』 No.44で紹介した『日本初期新聞全集』 全20巻 べりかん社(編年複製版)も参照するとよい。
27. 日本新聞五四報道資料集成 京都大学人文科学研究所 1983 (222.072 ; N2)
 

日本側資料として1919年だけの大阪朝日新聞、大阪毎日新聞、時事新報、国民新聞、京都日出新聞の五紙を各新聞ごとに月日順に配列したもの。
28. 新聞集成昭和史の証言 同編集委員会編 本邦書籍 1983-1987 (210.7 ; S17)
 

昭和元年から昭和20年までを約300種の新聞から記事を抜萃し編年体で構成したもの。政治、外交、軍事、司法、産業、経済、社会、文化、スポーツ等におよぶ昭和日本全史。最後の20巻は事件、人物、事項索引。
29. 新聞集成日の丸・君が代 大空社 1989 (373.1 ; S16)
 

昭和20年12月から平成元年春までに、朝日、産経、東京、日経、毎日、読売その他の新聞・機関紙に掲載された関係記事の集成。末尾に年表と記事目録がつく。
30. 新聞集成夏目漱石像 平野清介著 全5巻 明治大正昭和新聞研究会 1979-1984 (910.28K ; Nh5)
 

明治29年から大正9年までの国内および旧植民地等で発行された夏目漱石にかかわる文章を集大成。
31. 新聞集成芥川龍之介像 平野清介編著 全2巻 明治大正昭和新聞研究会 1979-1984 (910.28L ; Ah2)
 

大正3年2月より大正7年12月までの国内および旧植民地等で発行された芥川龍之介に関する記事の集大成。



# 実例を中心とした 資料のさがしかた—36—

## 〔質問例1〕

三井の家憲の全文をみたい

## 〔回答〕

何種類かの『百科事典』で「三井家」という項目を調べると、家憲には享保7年の「宗竺遺書」と明治33年の「三井家家憲」との2種類があるらしいことがわかる。オンライン目録（和書）でワード＝MITSUIと入力すると21件表示され、書名目録カードで『三井』をひくと10余件ある。両者の中で三井家について書かれたものを搜すと、『三井事業史』（㊦335.48；M3）があり資料編1，3にそれぞれの家憲の全文が収められている。

会社史に関する目録をさがす手がかりとしては『日本の参考図書』（㊦028；N2-1B）に12件、『日本件名図書目録』（㊦025.1；N9）77／84歴史関係編に21件、『邦語文献を対象とする参考調査便覧』（㊦025.1；K9）に18件紹介されている。

これらに挙げられている目録は『会社史総合目録』（専門図書館協議会設立30周年記念出版）（㊦028.355；K7）をはじめとして当館でも多く所蔵している。また、本学の所蔵目録として『同志社大学所蔵 社史・経済団体史目録 1984年12月現在』1987（㊦028.335；D-2）がある。

『会社史・産業史・商業資料蔵書目録』（㊦028.335；N3）の蔵書は長尾隆次資料室が所蔵していたもので目録は「正編1979」「続編1980」「続編第2集1981」の3分冊からなるが、現在は龍谷大学に移り龍谷大学図書館所蔵長尾文庫となり『龍谷大学図書館所蔵長尾文庫目録』（㊦029.9；N25）が発行されている。

ここで使った『邦語文献を対象とする参考調査便覧』

1988年 書誌研究の会発行（片山喜八郎編）は調べやすいので紹介する。

インデックスとして14,600余件のキーワード（主題語）が50音順に配列されている。搜している主題語がみつかり、その主題語にはどんな種類の参考図書があるか、ということを白抜きの数字（①～⑩）で示し、つづいて当該頁、コード番号を指示しているので容易に必要な箇所に辿りつくことができる。種別の白抜きの丸数字は下記の分類を表現している。

- ① 解題・学史・研究史・利用の手引き
- ② 文献目録

- ③ 巻末・章末参考文献
- ④ 年表・年譜
- ⑤ 年鑑・統計・白書
- ⑥ 人名事典・人名録・名簿
- ⑦ 辞典・事典
- ⑧ 索引・要覧・一覧
- ⑨ 雑誌一覧・総目次・総索引
- ⑩ 写真・図版・地図

『日本件名図書目録』は「びぶりおてか」40号を参照されたい。

## 〔質問例2〕

(1) 遠藤周作の『イエスの生涯』についての書評をみたい。

(2) 司馬遼太郎の『「明治」という国家』1989年9月日本放送協会出版の書評をみたい。

## 〔回答〕

(1) 『日本の参考図書』の事項索引で「書評」をひくと『日本書評解題索引月報』内田老鶴圃刊 昭和34年3月から35年3月（当館所蔵なし）と『書評年報』（1970-1988）が紹介されているが、書評という性格上、出版年を調べておくとうべりなので、『日本近代文学大事典』（㊦910.3；N7）で調べると1973年 新潮社刊であることがわかる。そこで『書評年報—人文・社会・自然編』1973年（㊦025.1；S3）をみると、笠原芳光（宗教史学者）日本読書新聞12月3日他3点の書評が挙げられている。

(2) 最近刊行の本であるため『書評年報』には、まだ所載されていないので他を搜す必要がある。〔質問例1〕で紹介した『邦語文献を対象とする参考調査便覧』を主題語「書評」でひいてみると以下の記述がでてくる。

主題語	種 別	頁	コード
書評	①③⑤	14	019-103

これにしたがって、本文14頁をみると次のように記載されている。

019-103<書評>①参考文献案内 書評索引長沢雅男→

「書誌索引展望」5(3)(1981) ③書評関係参考文献 岡村敬二→「大阪府立中之島図書館紀要」15(1979) ⑤書評年報 既 1985 2冊 書評年報刊行会 1986

これら資料は本学で何れも所蔵しており請求記号は

「書誌索引展望」が(P020.1;S18)

「大阪府立中之島図書館紀要」が(P010.1;02)である。

「書評索引」長沢雅男(敬称略、以下同じ)をみると「出版ニュース」に新しい書評が掲載されていることがわかる。質問例の図書は1989年9月出版であるから「出版ニュース」(P020.1;S17)のそれ以後の「新聞雑誌書評リスト」欄をみていくと、1989年の11月下旬号に毎日新聞10月23日、12月下旬号に読売新聞10月30日、他1件、1990年1月上・中旬号に日経新聞11月12日 平川祐弘、1月下旬号に週刊朝日11月17日 向井敏、他1件記載されている。

「書評索引」「書誌索引展望」5(3)には

- 『日本書評解題索引月報』……\*1
  - 『書評年報』……\*2
  - “新聞・雑誌書評リスト”出版ニュース……\*3
- などについて詳しく紹介しているほか、
- “Book Review Digest”をはじめとして洋書に関するものが2頁にわたって紹介されており、20数点のリストが載っている。

\*1 昭和34年3月(昭和32年1月分)から35年3月(32年12月)10冊刊 大変好評であったらしいが1年で終刊

\*2 1970年版として、まず「人文・社会・自然編」が発行され、その翌年から「文学・芸術・児童編」が加わって2分冊で現在に至っている。

\*3 「出版ニュース」は旬刊1978年9月から掲載

岡村敬二「書評覚書き」には参考文献として74件挙げられており、その中から、参考になりそうな資料として「書評の索引」堀込静香『書評索引展望』1978年5月号(3月号?)をみると<「書評年報」を中心に>というサブタイトルがあり

## 2. 書評索引の種類

2. 1 日本書評解題索引月報
2. 2 出版ニュースの索引
2. 3 雑誌記事索引・累積版
2. 4 日本読書新聞の書評索引

と4点挙げられており

## 3. 書評年報についてと

同様に詳しく紹介解説されている。

その他の項目としては

## 1. 書評と書評の索引

4. 書評関係参考文献があるので合わせて参考にされたい。

## 〔質問例3〕

京阪神地区で「キネマ旬報」の戦前の号を所蔵している館はないか

## 〔回答〕

オンライン目録(逐次刊行物)で、KINEMA JUMPOUと入力すると

題名	キネマ旬報
巻次	1号(1918)～、再建1号(1946)～79号(1950)、復刊1号(1950)～
出版者	キネマ旬報発行所
ISSN 請求記号 P778 : K	
学総目番号 00278059 雑誌番号 K0552	

と表示される

また、『学術雑誌総合目録』(参027.5;G3)では「キネマ旬報」1巻(昭和5);-Na79(1950.4)復刊1号(昭和25.10)-と表示されており、発行状況が把握できない。そこで当館が所蔵している復刊1号をみると巻末に「本誌発刊までの経緯」があり、戦前号は1-735(1919-1940)であることがわかった。上記の『学術雑誌総合目録』によると、所蔵している館はない。『京都府立総合資料館所蔵逐次刊行物目録』(参027.5;K2A-2A)にもみあたらず、『全国公共図書館逐次刊行物総合目録』近畿編(参027.5;K)でも所蔵館はない。

このように、一般的に「大学」や「公共」の図書館の蔵書目録でみつからない場合は「専門図書館」を捜すことが必要である。そうした機関を調べるものの一つである『大阪近辺類縁機関案内』(参018;0)の件名索引をひいてみると「映画」で「シネ書誌館」が須磨にあることがわかった。「キネマ旬報」は戦前のもの30冊、戦後のものは全冊全て揃っているとある。この他にも、下記のように、主題別や地域別(県別)に調べることができるものがある。「びぶりおてか」45号と重複する部分があるが挙げておく。

『全国特殊コレクション要覧』(参018;Z2)

『類縁機関名簿』(参018;R2) 東京都立中央図書館  
『専門情報機関要覧』兵庫版(参018;S8) 兵庫県立図書館

『専門情報機関要覧』京都版(参018;S3) 兵庫県立図書館

『全国 文庫・記念館 ガイド』(参018;Z)



# 「特別研究図書費」による購入図書リスト(6)

—1989年度—

研究資料費は、学部教員用としての学部図書費、研究所の図書費、学部教育研究助成費、個人研究費等と「特別研究図書費」から成立っています。

従来研究資料費は部科別配分（学部図書費・研究所資料費）や個人別配分（個人研究費）であり、したがって資料収集は部科毎縦割りであるので、様々な問題をはらんでおりました。いわく、高額大型資料の収集は困難である。（「文部省私立大学研究設備整備費等補助金に係る研究設備」の「特定図書」の補助金申請という制度はあるというものの、交付されるとは限らない。）また、各学部学科研究所に、利用がまたがるような資料も集められにくい。さらに、専門課程が設置されていない分野の資料も、少し高額になれば不可能に近い、等々であります。そしてかなり高額な資料でも、重複が生じやすく費用効率の点からも問題があったといえます。

そこで、それらの問題点を少しでも解消できるよう、「特別研究図書費」が設定され、共同利用の観点から、図書館が収集の窓口となって運用し、資料の所蔵保管の任に当たってきました。そして図書館は学習図書館としては勿論のこと研究図書館としての機能をよりよく発揮できるようになりました。

1989年度内に同図書費で購入した図書資料は下記の通りです。

このリストは、関西四私大（関西・関学・立命・同志社）が同様の情報を交換しあい、累積して一冊のパンフレットにまとめております。したがって関西四私大の相互協力にも拍車がかかるでしょう。同パンフレットは、1990年度の図書購入希望を募るときに、四大学での重複購入を可能な限りさけるためにも、配付し、ご利用いただくつもりです。

Annual Reports of the Largest 59 Major American Companies through 1985. microfilm [PFM ; 21]

Bank-Archiv : Zeitschrift fuer Bank-und Boersenenwesen, Jg. 1-45 (1901-45) orig. ed. (誌名変更 Jg. 43/Heft 7- : Bank-wirtschaft) [P338 ; B9/10]

(精神医学集成) British Journal of Psychiatry, vol. 17-153 (1961-88) ; [P493 ; B4] Psychiatry, vol. 1-51 (1938-88) [P493 ; P4]

Early English Text Society (EETS) . Original Series, 1-209, 217, 224, 232 (1864-1951) ; Extra Series, 1-126 (1867-1920) ; Supplementary Series, 1-9 (repr. ed. )

Economic Working Papers (EWP) : Combined Microfilm & Bibliographic Service, 1973-74 (Bibliography) ; 1975-88 (Microfilms & Bibliography) .

公文録（国立公文書館所蔵）中央政府立法政策決定原資料

—— 目録 [028.317 ; K] [FM ; 18]

公文類聚（国立公文書館所蔵）明治19年-45年 (人文研所蔵)

The Manchester Guardian, 1821-1961 (micro) (誌名変更 1959- : the Gurdian) [PFM ; 16]

明治期産業翻訳集成（国立国会図書館所蔵）全4編 [FM ; 21]

National Inventory of Documentary Sources in the United States, \* [FF ; 3] pt. 1 : the National Archives & Records Services, the Presidential Libraries, Smithsonian Institution Archives.

pt. 2 : Manuscript Division, Library of Congress, 900 microfiches in 3 binders with printed index.

pt. 3 : States Archives, Libraries & Historical Societies, unit 1-15 & index. \*

The Poor Law Magazine for Scotland, 1858-97. 39 vols. (誌名変更 1-9 (1858-67) ; 1-5 (1867-72) : the Poor Law Magazine & Journal of Public Health for Scotland ; 1-18 (1873-90) : the Poor Law Magazine & Parochial Journal ; 1-7 (1891-97) : the Poor Law Magazine & Local Government Journal)

世紀転換期のアメリカ・キリスト教に関する第一次資料 全27点マイクロフィルム

新世界朝日新聞 May 1906-Nov. 1941 マイクロフィルム [PFM ; 15/22-24]

(誌名変更 1906-10 (1-3, 5-12), 1911-26 (5-12), 1927-32 (1-10) : 新世界 ; 1932 (10-12), 1933-35 (1-6) : 新世界日々新聞 ; Dec. 1931-Jun. 1935 : 北米朝日新聞 (分離) ; 1935 (7-12), 1936-41 (1-11) : 新世界朝日新聞)

The Times (London), 1785-1829, 1830-37, 1838-68 & index 1785-90. , 1869-88, 1889-1908 & Palmer's index to 1790-1905. [PFM ; 11]

Zeitschrift fuer Deutsche Philologie, Bd. 1-96 (1869-1977), 100 (1981) [P800.4 ; Z]

(注1) \*印=文部省の「特定図書」

(注2) [] 内は請求記号、整理中等につき請求記号のないものについては、お問合わせ下さい。

(注3) 継続物について、すでに購入所蔵しているものも表示した。

## 日経・経済図書文化賞

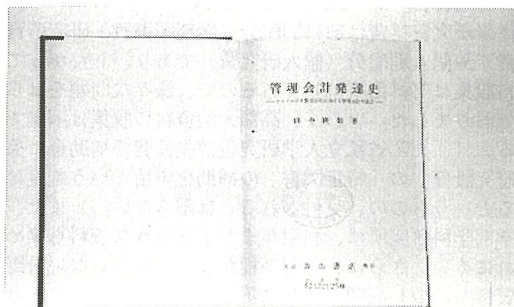
「日経・経済図書文化賞」という賞がある。これは1958年から発表されているもので、経済・経営に関する図書・学術書に与えられるものである。この賞では近年、日本人の海外出版図書の受賞が増えている。従来、欧米からの輸入中心であった日本の経済・経営理論が、逆に輸出されるようになってきたためである。

この日本の経済学・経営学の国際化は、日本の経済発展がもたらした所産だと言える。日本企業は二度にわたるオイルショックや、最近では、G5での“プラザ合意”以降の円高・ドル安誘導といった危機的状況に直面してきた。しかし、そのたびに、上手く難局を乗り切り、特にオイルショック時には、財務体質の見直し、自己資本比率のアップをはじめとした減量経営の断行に成功した。そして、その効果が、円高下における各企業の柔軟な対応となってあらわれたものと思われる。そこで、この日本経済・企業の強さの秘密を裏づける経済・経営理論が国際的にも求められるようになってきたのである。この観点から意欲作をいくつか紹介しよう。

まず、1986年度受賞の「日本の企業投資と研究開発戦略」（鈴木和志・宮川努著、東洋経済新報社）は、日本経済が良好である要因を企業の設備投資と研究開発行動にあるとしている。そして、トービンのQ理論や新古典派理論を援用して、それらを分析し、経済変動要因にせまろうとしている。

次に、1989年度受賞の「日本の製造業・金融業の生産性分析」（吉岡完治著、東洋経済新報社）は、我が国の製造業・金融業の規模の経済性について詳細な分析を行なっている。そして、生産性の上昇要因が規模の経済性にあるのか技術進歩にあるのかといったことを実証分析している。

また、本学出身である田中隆雄氏が「管理会計発達史」（森山書店）で1983年度に受賞されている。同書



は19世紀から20世紀初頭にかけてのデュボン社、ジョンソン社の典型例の分析を通じて、成立期の管理会計の姿を明らかにしている。学説史的研究ではない、歴史的事実そのものの叙述にその特徴がある。そして、管理会計はローワー・マネジメントの統制会計を起点とし、トップ・マネジメントの計画会計へと発展するという結論を導き出している。

パックス・アメリカナの終焉がささやかれるなか、東欧の民主化、ソビエトのペレストロイカと、国際社会は世界協調システムの時代を迎えようとしている。あらゆる価値のパラダイム転換がはかられているのである。そこで、世界最大の債権国、日本の成功を背景に、日本人の手で構築された経済・経営理論のなかから新しい価値の体系を引き出し、提示することができたら、国際社会に対する熱いメッセージになるのではなかろうか。その模索の状況が日経・図書文化賞の一連の受賞作に見てとれる。過去の受賞作は日本経済センター月報、会報の11月号を年度ごとに調べればわかる。月報、会報は経済学部、商学部、人文科学研究所の各図書室に所蔵されている。紹介した3冊の本はすべて図書館にあるが、受賞作の多くが、図書館あるいは研究室に所蔵されているので、一読されることを期待したい。

“びぶりおてか”

同志社大学図書館報 No.47 1990年4月1日発行

発行 同志社大学図書館 京都市上京区今出川通烏丸東入 電話 251-3971

編集責任者 西田逸郎（図書館庶務課長） 印刷 眞興社